

貸借対照表

(平成24年3月31日現在)

(単位:千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	8,453,653	流動負債	5,161,026
現金及び預金	265,025	買掛金	3,425,762
売掛金	4,172,142	未払金	725,141
未収入金	70,874	未払費用	327,421
商品	658,937	未払法人税等	430,451
貯蔵品	18,999	未払消費税等	117,153
前払金	18,502	預り金	62,125
前払費用	169,058	前受金	1,872
繰延税金資産	263,544	リース債務(1年内)	68,142
関係会社預け金	2,786,935	その他	2,956
その他	30,057		
貸倒引当金	△424		
固定資産	3,160,225	固定負債	1,211,792
(有形固定資産)	1,274,056	退職給付引当金	1,010,962
建物	325,428	役員退職慰労引当金	42,018
建物附属設備	416,945	預り保証金	6,000
構築物	16,508	リース債務(1年超)	145,285
器具備品	392,152	その他	7,525
リース資産(有形)	123,020		
(無形固定資産)	114,766	負債の部 合計	6,372,818
ソフトウェア	71,452	(純資産の部)	
電話加入権	22,741	株主資本	
リース資産(無形)	20,571	資本金	100,000
(投資その他の資産)	1,771,403	利益剰余金	5,141,059
敷金・保証金	1,204,094	利益準備金	25,000
長期前払費用	1,513	その他利益剰余金	5,116,059
繰延税金資産	345,466	繰越利益剰余金	5,116,059
負担金	6,152		
前払年金費用	214,203	純資産の部 合計	5,241,059
貸倒引当金	△27		
資産合計	11,613,878	負債及び純資産合計	11,613,878

(注)記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

ドコモ・ビジネスネット株式会社

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（建物及び建物附属設備は定額法）によっております。

なお、耐用年数については見積り耐用年数、残存価額については実質残存価額によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、耐用年数については見積り耐用年数によっております。

また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

有形固定資産については、リース期間を耐用年数とし、リース期間終了時点に実質残存価額となる定率法（ただし建物及び建物附属設備は定額法）によっております。なお、実質残存価額が零の場合（ただし建物及び建物附属設備を除く）については、リース期間終了時点に残存価額10%となる定率法による減価償却費相当額に9分の10を乗じる方法によっております。

無形固定資産については、リース期間を耐用年数とする定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、破産更生債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生している額を計上しております。

なお、数理計算上の差異については、発生年度に全額を費用処理しております。

また、過去勤務債務については、発生時の従業員の平均残存勤務期間に基づく年数にわたって定額法により費用処理しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約については工事進行基準を適用し、その他の工事契約については工事完成基準を適用しております。なお、工事進行基準を適用する工事の当事業年度末における進捗度の見積りは、原価比例法によっております。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税は、税抜方式によっております。

追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

当期純損益金額

当期純利益 915,211千円